学校評価シート（自己評価）令和６年度分

ひさみ幼稚園

１、園の教育目標

子どもたちに豊かな環境を保障して、子どもたちが環境との出会いの中で、驚いたり、感動したり、発見したり、考えたり自らの興味や関心の要求の質を高め、豊かなあそびや生活を展開し、人間として一番大切な非認知能力を身につけられる保育を目指している。

２、具体的な目標や計画

それぞれの評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施することによって、教員が自らが客観的に自園を見る目を養い、教育環境の改善、教育内容の改善に主体的かつ意欲的に取り組んでいくことを重点項目とする。それらを通じて、保育の質を高めて、よりよい環境や設備を整えながら、子どもの心身の健やかな成長につなげていく。

３、評価項目の取組及び達成状況

評価項目	結果（※）	結果の理由
適切な保育の実践と 保育者の専門性向上	A	昨今「不適切保育」というワードがニュースなど取り上げられ、保育現場において深刻な課題になっている。そこで、本園では「適切な保育」を目指して、保育の質を高めることを全教職員間で共通理解を図り、その目標に向かって取り組んできた。日々の保育を振り返りや保育計画の見直しなどを積極的に行ってきた。また、園外の研修会に参加したことで、先生たちの個々における能力が明らかに向上していった。今後も保育の専門性や技術を高められるように、教職員全体で取り組んでいきたい。
動物飼育の研究と実践	A	本園で力を注いでいる保育における動物飼育にもさらに磨きをかけてきた。昨年に引き続き、目白大学と連携して『園内におけるうさぎの飼育環境』の研究を進めることができた。そして、その結果を踏まえて実践に役立てることができた。また、長い間望んでいた「こども動物自然公園」と連携事業を打ち立てることができた。飼育員から動物飼育の話を聞くことで、子どもたちの飼育の意欲も高めることができた。引き続き、研究を重ねて、よりよい飼育環境を模索するとともに、動物園とも連携して、本園の核となる動物飼育に力を入れていきたい。

安全管理	A	いつ何時起こり得るかわからない地震や火災への対応は保育現場でも必須である。そのため、避難訓練や安全教育を強化してきた。園内研修も実施して、教員一人ひとりの防災・防犯意識を高めていった。
幼保小の架け橋プログラム	B	教育界では、架け橋期にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人一人の多様性に配慮した上で全ての子どもに学びや生活の基盤を育むことを目指す「幼少の架け橋プログラム」が重視されている。本園でも教員が研修に参加し、その理解を図った。また交流会実施という形で小学校との連携を深めて保育実践の充実化を図ってきた。しかし、まだ教員一人ひとりがきちんと理解し、実践に落とし込めるまでに到達していない。
ICT の実用化	A	昨年度に引き続き、クラス日誌や週案、保育計画等に ICT システムを活用してきた。上手に利用することで、教員の仕事の効率化や負担軽減に活かされた。また、保護者が安心して便利に使えるシステムとして引き続き活用することができた。可能であればバージョンアップも視野に入れていきたい。

４．具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結　果	理　　由
A	今年度は保育の質の向上に重きを置くことのできる１年となった。教職員も保育実践に力を入れ、子どもたちの心身の発達を助長するため、質の高い保育実践を行うことができたと言える。また、本園の特色でもある動物飼育についての研究を集中して行うことができた。園外の研修会に参加や園内研修の強化もして、教職員が保育者としての資質を向上しようとする姿勢が見られた。 昨年に引き続き、ICT システムもスムーズに使えるようになった。保護者との連絡も円滑化され、教職員の事務仕事の効率化を実現できた。今後も活用の幅を広げていきたい。 社会の様々な状況の変化を受けて、教職員一人ひとりの自然災害への危機管理や不審者対応の意識が高まっていることで、安全管理を強化できたことも良かった点である。 現在の教育界でも重視される「幼保小の架け橋プログラム」について学習できたことも大きな収穫となった。ただし、まだ保育の中に上手く落とし込めていない点や、小学校との連携をより綿密にする必要があることは今後の課題となる。

〇結果（※）について

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

５、今後取り組むべき課題

課　題	具体的な取り組み方法
保育者の資質や専門性の向上	本園の保育の質を高めることは、教員一人ひとりの資質や能力、専門性を向上させることとつながってくる。そこで、引き続き、園内外の研修会、保育教材の研究、教員間の情報交換を大切にして、保育力の向上に努めていきたい。教員の経験年数は様々だが、若い世代もベテランも共に学ぶ姿勢をもって、教員全体でチームワークを大切にしながら保育に携わっていきたい。また、型にはめるのではなく、教員のそれぞれの個性を尊重し、のびのびと保育ができるようにする必要性もある。そのためにも園長、副園長、主任クラスが、教員の思いに寄り添い、働きやすい環境作りに努めていきたいと考えている。
動物飼育活動の実践と探究	目白大学の先生との共同研究「動物飼育の研究」を継続していきたい。今後は、うさぎ以外のヤギやチャボの研究にも広げていき、子どもにとっても適切な飼育環境を探究していく必要がある。また、こども動物自然公園と提携も継続し、飼育員によるお話し会などを実施して、子どもたちの動物への興味関心を高めていきたい。さらにはプロ・ナチュラリスト佐々木洋先生からも自然に対する知識を学び、実践に役立てていきたい。
保護者向け子育て講座の実施	子育て支援の一環として、“乳幼児期の子育ての大切さ”を保護者に発信していく使命があると考えている。具体的には「親と子の愛着形成」をテーマにして、子育て講座を実施していきたい。また「絵本がもたらす親子の絆」「父親の役割」をテーマにして外部講師を招いた講座を開催する予定である。
預かり保育の充実	東松山市も出生率が減少している。また、女性の社会進出の傾向から保育園に通う世帯が増えてきている。幼稚園として、保護者のニーズへの対策を考える必要がある。それには預かり保育の拡大や充実化が早急に求められる。教職員の仕事の負担軽減と相反する形になるが、うまくバランスを取りながら向き合っていきたい。
安全管理面の強化	最近では、日本で大地震が起こり得るという予測を多く耳にする。「備えあれば患いなし」の教訓をもとに、園でも地震避難訓練を実施していきたい。保育においても子どもの防災意識を高めていく必要がある。消防署とも連携し、火災避難訓練も引き続き力を入れていきたい。また昨今、幼い子どもが犠牲になる事故や事件が多発しているため、教員一人ひとりが安全管理や防犯対策への意識を高めることが必須と言えるだろう。

学校評価シート（令和６年度分　園関係者評価）

ひさみ幼稚園　学校関係者評価委員会
日時　令和　７　年　５　月　１７　日（土）
１８：００　～　１９：００

出席者：評価委委員
保護者　学校評議員　地元企業関係者
教育関係者

１．自己評価で設定した目標・計画、評価項目の設定は適切であったか

・設定した目標は、遊び中心の保育を重視し、非認知能力の育成を重視している点は、幼児の心身の発達にとって相応しいと思われるので、とても最適だと思われる。
・目標や計画は、幼児への適切な援助に重きを置いているところが、「子どもの成長」を大切としているため、適切だと思われる。
・評価項目の設定も、本園の特色をより発展させ、現在の教育で課題となっている面を積極的に取り入れている点が適していると思われる。
・評価項目の達成状況について、丁寧に振り返りができていると思う。

２．評価結果の内容は適切であったか

・概ね適切だと思われる。
・内容に具体性がある点がよいとおもわれる。

３．今後取り組むべき課題は適切に設定されているか

・各項目ともに、きちんと分析し、取り組むべき課題がきちんと挙げられる点が望ましい。
・教員の資質や専門性向上を掲げる点は、何よりも大事なので適切だと思われる。
・自己評価で設定した評価項目について、とても具体的で良い。但し、長すぎるので、もう少し簡潔にしても良いと思われる。

４．今後取り組むべき課題は適切に行われているか

・概ね適切だと思われる。
・評価結果から、保育現場の実践にどのように落とし込むかということが具体的でよいと思われる。